

プロの演奏家が「出前授業」

木管五重奏「DUHA」が各小学校で生演奏



楽しいお話もたくさん聞くことができました

木管五重奏の「DUHA（ドゥハ）」が、10月9日の町文化会館コンサートに先がけて、10月6日から8日までの3日間、町内各小学校で「出前授業」を行いました。

これは、プロの演奏家が学校や福祉施設を訪れて、生の音を身近な場所で聴いてもらう「演奏家派遣アウトリーチ事業」の一環で行われたものです。

メンバー5人は7日午前、広安西小4年2組を訪れ、生の演奏を披露。その後、子どもたちはメンバーとともにストローで作ったリードを使って音を出す練習や音だけを聴いて楽器を当てるゲームなどを楽しみ、笑顔の絶えないひとときを過ごしました。

明治時代へタイムスリップ

広安小4年生が昔の農機具を見学

9月6日、^{ながおみちこ}長尾美智子さん（惣領2町内）宅で、^{すどうとしひろ}須藤紀博校長）4年生の105人が、社会科の郷土に伝わる願いの学習の一環で、昔の暮らしを知り、道具を調べてみよう、と、農機具見学を行いました。

この日も子どもたちが目にした道具は、古くは百数十年前から使用されていた、かずらで手作りされた『もみおろし』や『蓄音機』など約50点。

子どもたちは、「見たことのない道具ばかりで面白かった」「昔の道具の方が今のものより優れていたりして、昔の人の頭の中はすごいと思った」と見学で、多くのことを学んだ様子でした。



珍しい農機具に直接触れ学習する子どもたち



EMダンゴ作りをする参加者

美しい環境は足元から

子どもたちと一緒にEMダンゴ作り

9月4日、小池秋永・下原地区の子どもたちと同地域の皆さんが、川などの水質浄化に有効な「EMダンゴ」作りを行いました。

これは、月に一度、地域の魅力を子どもたちに伝え続けている「ふるさと子ども寺子屋」^{わたなべきんいち}（渡邊欣一代表）と、小池秋永地域資源保全チーム^{もりかわまもる}（森川護代表）が共催で開いたもので、町商工会女性部が講師として招かれました。

作り方を教わった子どもたちは、手を真っ黒にしながら約300個のEMダンゴを作り、川の水がきれいになるようお願い、1週間後に地元を流れる小池川などに投入しました。